

# 推古天皇・ 聖徳太子による 新しい政治



仏教をめぐる蘇我氏と物部氏の対立は、やがて終わりを迎えました。しかし争いで荒れていた都の混乱はなかなかおさまらず、国に落ち着きを取り戻すために、すぐれた知恵を持つ甥の厩戸皇子(聖徳太子)に政治を任せることにしたのです。

皇子は「冠位十二階」や「十七条の憲法」を定め、人材を登用し、役人のあるべき姿を示しました。また、小野妹子を隋(現在の中国)に派遣し、隋との交流を深めていきました。力づくではない「和」の精神、これが私と皇子の目指した政治だったのです。

## 推古天皇

『日本書紀』によるプロフィール

- ・父は欽明天皇、夫は敏達天皇
- ・厩戸皇子の叔母で、皇子を摂政とした
- ・蘇我馬子は叔父
- ・わが国初の女性天皇

天皇を中心とした強い国家をつくるため、推古天皇が聖徳太子とともに進めたのは、誰もが納得のいく公正な国づくりでした。個人の能力に応じて天皇が位を授ける仕組みである「冠位十二階」をつくり、役人として大切にするべき道徳をまとめた「十七条の憲法」を制定しました。

また、推古天皇15年(607年)には国の正式な手紙を持って、小野妹子が「遣隋使」として隋に渡りました。当時の隋は東アジアの中心となる先進国で、妹子の役目は先端の文化を吸収して日本に持ち帰ることでした。翌年、隋の使者・裴世清と一緒に帰国した妹子でしたが、隋の皇帝からの手紙をなくしてしまい、臣下たちは妹子を流刑にしようとしてしましました。しかし、天皇は罪を許し、翌年、妹子は裴世清とともに再び隋に向かいました。

当時、聖徳太子は斑鳩から飛鳥まで愛馬の黒駒に乗って通勤していたんだ。その約20キロの道のりは「太子道(筋違道)」といって、多くの聖徳太子の伝説が残っているよ。



「記紀・万葉プロジェクト」からのお知らせ

「第11回全国高校生歴史フォーラム」研究レポート募集中!

県と奈良大学は、歴史、地理、文化財、文学、人物などをテーマにした研究レポートを募集し、優秀作品を披露する「全国高校生歴史フォーラム」を開催します。応募方法など、詳しくは下記へ。

問 第11回全国高校生歴史フォーラム実行委員会  
☎0742-41-9588 第11回全国高校生歴史フォーラム 検索

『日本書紀』のエピソードを映像でわかりやすくご紹介

「奈良まほろまん」聖徳太子の聖人伝説

『日本書紀』の中の興味深い11のエピソードを映像化した「奈良まほろまん」。県内各地に残るゆかり地の美しい風景やイラストが楽しめます。こちらも、ぜひご覧ください。

なら記紀・万葉ホームページ、YouTubeでご覧いただけます。

奈良まほろまん

検索